

追い付かないと分かっているボールを お前はなぜ追いかけないのか！

例えば、乱打のクロスストローク練習・・・自分が打ったサイドライン一杯のボールに対して、角度のついた厳しいクロスが返ってくる。今の脚力では追いつけるはずがない・・・相手の打ち損じた緩いボールが、ぎりぎりのところでネットを越えてくる。今から飛び出したって拾えっこない。まあ、2バウンドなら楽にストロークを続けることが出来るだろうが・・・浅くなったボールを処理して、そのまま前に出たら、ロブが頭の上をふわりと越えていった。必死に戻れば届くだろうか。いやいや、今の瞬発力では追いついたとしても、ラケットに当てるのが精一杯に違いない。

だけど、なぜ追わない？追いつけないとわかっているボールを、どうして追いかけてやらないのか。追いつかないなら追っても無駄だと思うのか？追いつけないあのボールに、いつかは必ず追いつきたいと心から願わないのなら、テニスなどやめてしまった方がいい。

実際に追いかけることもしない者には「追いつけなかった」という事実しか残らない。判断力、瞬発力、脚力があとどれだけ不足していて、あとどれだけ頑張れば追いつくようになれるかなんて、永遠にわかるはずがないのだ。

「今の力では、あのボールには絶対に追いつけない」その判断は正しい。動かしがたい事実である。それは「今の実力では全道は厳しい」という分析・判断が正しいのと同じ理由で、動かしがたい事実なのだ。しかし、今の力では追いつけないボールを追いかけるのを無駄だと考えるとしたら、それは、今の実力では及ばない全道大会という目標を追いかけるのも無駄だということになってしまうんじゃないのか？

確かに今は全道大会に叶^{かな}うだけの実力はないかもしれない。特に自信や危機感、それらによって醸成される気迫や決断力や集中力といったメンタリティの欠如は深刻というほかない。しかし、それは今その力を持っていないというだけでなのである。確かにあのボールには追いつけない。しかし、それは今追いつけないというだけなのだ。追いかけてさえいけば、必ず追い付くようになるのだ。そして、あのボールを追いかける必死さ、あのボールをどうしても拾いたいと願う切実さ、あのボールを追いかけてはいられない誠実さは、今のお前たちに欠如しているメンタリティを強化するための急行券でもあるはずだ。だったら、今、あのボールを追いかけていないでいいはずがないじゃないか。